

『利尻しまじゅうエコミュージアム』

【設立の趣旨】

利尻島は、漁業を基盤とし、近世においては松前藩、近江商人などによる交易や請負場所がおかれ、近代では北海道開拓移住による本州各地からの人々の渡島によってつくられてきた島である。

ここには、近世から近現代に北の海で展開された漁業と移住・開拓の歴史を今に物語る漁業などの産業遺産群や文化財が遺されているが、利尻島の遺産群の価値は解りやすいものではなく、遺産をそのまま観光客に見せても、十分な理解や満足を得ることが出来ず、持続的な地域資源としての期待は持てないと考えられる。

こうしたことから、利尻島内外の関係機関が連携協力し、遺産を物語るストーリーを解き明かし、丁寧に伝える方法を取ることで、遺産群を利活用する仕組みの構築と仕事の創出、そして保全継承につなげる活動を推進することを目的として、「利尻しまじゅうエコミュージアム」を設立することとした。

【組織名称に込めた想い】

「しまじゅう」という表現には、利尻島全体＝今ある又は過去にあった、未来に遺すべき「ヒト」「コト」「モノ」すべてという意味を込め、本取組の目的である地域の人びとの生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を史的に研究し、それらの遺産を地域において保存、育成、展示することによって、当該地域社会の発展に寄与する意味からも、利尻島全てが博物館であるという想いで「利尻しまじゅうエコミュージアム」という名称とした。